



ofuroba



オヂカノオト

小値賀の宿泊は民宿や民泊、古民家ステイなどバラエティーに富んでいる。リビングや浴室、テラスなど、どこからでも海を感じることができる「オヂカノオト」は1日1組限定の人気の宿。



古民家を改修して生まれた「ofuroba」では薬草風呂と、フィンランド式のロウリュウが楽しめるサウナを貸し切りで利用できる。



笛吹横丁



島の味「かつおの生節」で乾杯！

歩けばすぐに  
旅人ならぬ  
島人に。

笛

吹地区では、漁業で財を成してきた歴史を裏打ちするかの様に時折、豪華な構えの家屋や文化財に指定されている風格ある建物を目にする。集落には映画館やコンビニ、商業施設などは一切ない。しかし路地を歩いていると、自家焙煎のコーヒーの店があったり、薬草風呂とサウナが楽しめる貸し切り風呂があったりと、思わぬ出会いがある。移住者やUターンで戻ってきた人たちが開いたのだろうか。どの店も気取らない洗練さで、この島の良さを伝えたい気持ちにあふれている。夜のお楽しみは、島の味を楽しめる「笛吹横丁」へ。レトロな雰囲気がある店内は、笛吹の路地の世界観そのまま、昭和にタイムスリップしたよう。こちらでいただいたのは、



島の名物「かつおの生節」。熱湯で茹でたハガツオを丁寧に燻上げたもので、島の職人の手作りだという。独特の燻製の香りとかツオ本来の旨味が、冷えたビールによく合う。小値賀では地元の人も観光客も一緒に飲むという。観光客を放っておかない、それが島の文化なのだろう。小値賀では多くの移住者に出会う。一人一人に、この島に惹かれた理由を尋ねると、彼らからは、こんな答えが返ってきた。「人があったかいんです」「大人がみんないい意味で無邪気で、偉そうにしている人がいます」「島の人の包容力の高さに魅了されました」。一日島をめぐっていると、その言葉が真実であることはすぐに分かる。島を散策していると、すれ違う人が皆、挨拶をしてくれる。しかも、その距離感が初めましてのそれではなく、まるで昔からの知り合いのように親しみを込めて自然に話しかけてくれる。小値賀には、また会いたい人たちが穏やかに暮らしていた。



黒島より小値賀島を望む。中央手前の建物が建ち並ぶエリアが笛吹地区。